常任委員会の「所管事務調査」中間報告

所管事務調査とは、各常任委員会がその委員会の担当している市の事務(所管事務)について調査を行い、必要に応じて市に対して指摘、提言するものです。各常任委員会が令和5年12月から調査を開始しています。

総務常任委員会

調査事項

「市民生活と市の業務に関するDXについて」

横須賀市とGovTech東京で先進的な取組みを調査

DX事業の先進地等の視察として、7月26日に横須賀市、7月31日にGovTech東京を視察。

横須賀市では、①介護認定調査にタブレットを持ち込み、調査件数を増やせる、データをそのまま認定審査会に出せるなどの利点、②市民相談記録から生成系AIを使っての報告書づくりによる時間短縮など調査しました。

GovTech東京では、伴走型の技術サポート実施、デジタル教育を通じた人材育成サポートなど調査することができました。今後も引き続き、市民サービス向上及び事務の効率化の視点で調査研究を進めます。

健康福祉常任委員会

調査事項

「認知症の方及びそのご家族が、地域で安心して暮らすための支援について」

認知症カフェの先進市を視察

認知症の方とそのご家族の不安や悩みを解消するためのコミュニティの場として機能している「認知症カフェ」が、コロナの影響で大幅に減少している点を課題として捉え、先進市のひとつである町田市を視察。NPO法人や社会福祉法人が主催するケースの他、有名コーヒーチェーンの店舗内やオンラインでの開催を試みるなど、多彩な運営方法により、町田市内には24ヶ所の認知症カフェが運営されています。住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けられる生活の実現に向けた斬新な取組みを学び、委員会として今後も行政視察等を行い、調査研究を進めます。

生活環境常任委員会

調査事項

「地域公共交通について」

自動運転の実現に向けて

多摩市の地形は山坂が多く、そのうえ高齢化が進む中で、買い物や通院など日常の外出にも地域公共交通への要望は大きく、今後の市民の暮らしを守る観点でも重要な課題となっています。また、障がい者の移動の保障も欠かせません。

運行の主体を担う、バス会社やタクシー会社では、運転手不足が深刻な状況になっています。今後の地域公共交通を考える上では、自動運転システムの本格的な導入を視野に入れた取組みも必要であるとの視点に立ち、先進的に事業を進めている自治体の視察を行う等、さらなる調査を進めてまいります。

子ども教育常任委員会

調査事項

「子ども・若者への支援について」

困難を抱える子ども・若者への支援について

「子ども・若者への相談体制、特に行政との繋がりが切れやすい高校進学時や就職時への支援」、「社会的自立のできる生徒の育成という観点からの不登校対策」の二点について、さらに掘り下げて調査し、支援の提案をしたいと考えています。

今後の視察先は、様々な困難を抱える子ども・若者を支援する窓口として、奈良市若者サポートセンター「Restartなら(リスなら)」と、子どもたちが自らのペースで、興味・関心や能力・進度に応じ、自立して学ぶことを最大限に尊重する学びづくりを行う名古屋市立山吹^{やまぶき}小学校の取組みです。